



布施だより

《 当たり前のことを、当たり前に 》

～ 縁の下の力持ち、ありがとうございます ～

当たり前の毎日の生活が、様々な種類の活動に支えられていることに気づくことがあります。学校生活の中でも、多くの生徒の皆さんの仕事や心遣いに支えられています。ひとつの集団や組織が当たり前のように過ぎていく上で、ひとりひとりの仕事がかげがえのないものだとすることを改めて感じます。

12日(木)の生徒会委員会活動のひとコマです。ボランティア委員会の諸君は朝から、登校してくる生徒達に募金活動と呼び掛けてくれています。震災地の皆さんとユニセフに送る活動になります。図書委員会では小説紹介をひとりひとりが色画用紙に工夫を凝らして書き入れてくれています。昇降口脇の水道では、整美委員の諸君が教室で使われているゴミ箱の汚れを丁寧に洗い落としてくれています。体育館からは応援員会のみんなによる応援練習が、太鼓の響きと共に伝わってきます。各教室では、委員会通信を制作し、発信してくれています。

毎日を支えてくれる様々な場所での、何気ない縁の下の力持ちが、西中学校の生活を潤いのある豊かなものにしてくれています。笑顔の素敵な西中生徒諸君です。



《 鈴鹿・市中大会での大活躍 》

6月14・15（土・日）に長野市中学校体育大会が各会場で行われ、15日には技術部の諸君が鈴鹿大会へ参加しました。

各会場へエールを送りに行くと、生徒諸君はそれは嬉しそうに迎えてくれます。不安を押し隠しながら善戦を誓う生徒、自信に溢れた口調での受け答え、異口同音に伝わってくるこれまでの活動への感謝、日ごとに謙虚さとたくましさを身につけつつある西中の仲間たちです。

＜技術部＞グループ I 優勝

＜ソフトボール＞優勝 ＜サッカー＞2位

＜男子バレー＞9位 ＜女子バレー＞17位

＜男子バスケ＞9位 ＜女子バスケ＞8位

＜男子テニス＞団体4位 山口・宇佐見ペア 内堀・石坂ペア

小林・山口ペア 柄澤・瀧内ペア

唐木田・松村ペア 内山・山口ペア

＜女子テニス＞団体2位 小河原・藤井ペア 赤澤・風間ペア

仁科・北澤ペア 奥村・宮澤ペア

＜男子柔道＞団体3位 齊川くん（2位）

＜女子柔道＞団体2位 平林さん（1位）山口さん（3位）

依田さん（1位）齋川さん（3位）

＜バドミントン＞団体4位 太田さん（シングル3位）

田中・水上ペア（ダブルス）

以上 北信大会出場。

＜男子剣道＞予選リーグ団体4位

＜女子剣道＞予選リーグ団体3位

団体、個人とも善戦するも北信出場ならず。

いつまでも勝ち続けていたいと願いつつ、敗れることでも多くのことを学んでいる生徒たちです。「勝ったときには静かに、敗れたときには堂々と帰ってきてほしい。」という言葉の意味を噛み締めつつ、また一歩成長の階段を駆け上がろうとしています。

大会の合間に中学校へ戻ると、吹奏楽部1学年のメンバーが保護者の皆さんの前で、ひとりひとり「ふるさと」を披露していました。本入部からわずか2週間の追究での発表。緊張がビシビシ伝わってくる演奏でした。それを見守る2・3年生の先輩らしい表情と拍手。

ゆったりとしたミニコンサートでした。



《 ふれあい ～保育園実習を通じて～ 》

初夏の陽を浴びて「杉の子第三保育園」で実習が行われています。技術家庭科の中島朋美先生がお伝えする温かいレポートです。

保育園実習の目的は次のふたつです。

- (1) 幼児のための遊び道具を製作し、それを用いて幼児と遊ぶ。
- (2) 幼児の生活と遊びについて学習したことをもとに、工夫しながら幼児と接する。

この目的を受けての追究の様子を紹介します。

出発の前に以前に決めた自分の課題（ふれあいを通じてやってきたいこと、頑張りたいこと、見て学んできたいこと）を確認して、保育園の実習に望みました。対面するとき。幼児の小ささに「かわいい～」とつぶやく笑顔。まだ慣れていないため（お互いに）接し方がよくわからないので、自己紹介やおもちゃの説明なども、幼児に対して敬語を使っているようなぎこちない様子も、見られました。



しかし、ひとたび個と個、もしくは個と複数（2, 3人）の関わりとなると、話したり遊んだり、笑顔で接することができるようになってきます。製作したおもちゃで遊ぶ幼児の姿を見て、生徒たちも「嬉しいな」、「作ってきてよかったな」という気持ちが湧き出てきたようです。教室での授業とはひと味違った姿を見せてくれる生徒がたくさんです。「ちゃんばら遊び」の道具を製作していったグループでは、幼児たちに集中攻撃されながらも、大はしゃぎで遊んであげるお兄さんたちの姿や、「抱っこして」と言われて、抱っこをしながらお話をしたり遊んであげたりする生徒の素敵な姿が目にと焼き付いています。



年少組に入った生徒は、「抱っこして欲しいときに、年少の子たちは自分に背を向けてきた。言葉はうまく話せないけど、態度で気持ちを伝えてくるのが分かった。」という発見をした生徒がいました。生徒たちは、幼児のペースを大切にするとともに、次第に幼児の目線（目の高さも気持ちのもち方も）に合わせて、触れ合うことができるようになるのです。別れるときは、幼児以上に別れを惜しみ、「また来てね。」「また来るね。」と言葉をかけ合えるまで変容をみせます。



〈実習後の生徒の振り返りです〉

- ・「小さい子があんまり好きではなかったのですが、今日遊んでみて、とても楽しくしっかり目標も達成できました。」
- ・「年長になると、体を器用に使っていて、ボールを見てバットにあてるのが普通にできていました。」
- ・「年少組で遊びました。どう遊べば良いかわからなかったのですが、園児の方からきてくれて、楽しく遊ぶことができました。よかったです。」

若い精神と命が触れ合い、しなやかな感性がきらめこうとしています。

《 お願い～送迎時の自動車の出入口・待機について～ 》



生徒の送迎の際、自動車の校地内への出入り・待機についてお願いいたします。自動車の出入りとも「北側 武道場泉心館」寄りの出入口を活用ください。生徒玄関前・職員玄関前での駐停車・Uターン等は、生徒の安全面からのご遠慮いただけるようお願いいたします。また帰りを待つ待機車の駐停車も「泉心館」北側を利用していただければ幸いです。重ねてお願いいたします。

《 お知らせ 》

- 1 「第1号」でお知らせしましたように、年間計画表にある「地区懇談会」の開催期日が変更されています。よろしくお願いいたします。

○変更 現行 7月4日（金） → 訂正 7月2日（水）

○理由 7月6日（日）の「資源回収」の実施に向けて、「地区懇談会」で出されたご意見に対応するため。

- 2 平成27年に篠ノ井西中学校は「創立50周年」を迎えます。節目の50周年記念事業に向けて同窓会、PTA 歴代三役会、PTA 役員の皆様を中心に準備委員会をもち、どのような事業を推進していくのか案を練っています。時々で状況をお知らせし、ご理解を得ながら推進していこうと考えています。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

